

平成30年度 学校自己評価表 (計画段階 ・ 実施段階)

福岡県立 春日 高等学校長 [印]

学校運営計画 (4月)				評価 (年間)	
学校運営方針		新しい時代を担う人間として、徳育・知育・体育の調和を図り、豊かな人格を涵養するとともに、自ら学び、個性を伸ばし、心身ともにたくましく、社会の発展に寄与する人間を育成する。		○	
昨年度の成果と課題		年度重点目標	具体的目標		
本校は創立40周年を終え、50周年に向かう推進力として「リーダーシップとフォローシップを備えた春日生」の育成を掲げた。そのためには、生徒の自主的な学びや積極的な行動力と広い視野の獲得が必要である。中学校・大学や地域との連携をさらに深め学校外の教育力を積極的に利用すること、生徒・保護者と深く関わり強固な信頼関係を作ることで、生徒の主体的な高校生活をフォローするという思考が必要である。教員の意識変革・授業改革を今年度の課題とし、一丸となった「チーム春日」の実現を図りたい。		(1) 「春日高校五常」をとおして、人としての在り方生き方など豊かな人間性とたくましい心身の育成を図る。	(1) 教師の率先垂範による「笑顔、挨拶、時間厳守、清掃活動など」凡事徹底を図る。		
		(2) 学ぶ意義について考えさせるなど自主性を重んじながら「授業心得五行」を徹底し、確かな学力を育み、高度な知識・技能と多様な見方・考え方を身につけさせる。	(2) 教育活動全般を通じて「自主的に取り組もうとする意欲やリーダーシップ、チームワーク、コミュニケーション能力」などの資質・能力を育ませる。		
		(3) 部活動や学校行事のさらなる充実・活性化を図り、計画力・実行力・調整力と協調性を養い、自らの課題設定力・課題解決力を高めさせる。	(3) 積極的な生徒観察により生徒理解を深め、強い信頼関係を築くとともに、いじめ撲滅や生徒のつまずきへの早期対応等に努める。		
		(4) 新しい時代を切り拓く責任感を持ち、チャレンジ精神と向学心を基盤とする確固たる志を涵養し、リーダーシップとフォローシップを兼ね備えた春日生を育成する。	(4) 「主体的・対話的で深い学び」の学習指導法について、研究・研修を深め実践し、生徒の能動的な学習態度を育む。		
			(5) 生徒の最大のフォロワーである教職員として、信頼関係に基づく個に応じた指導や支援を的確に行い、常にその組織力を高めつつ生徒の育成にあたる。		
			(6) 積極的な広報活動に努めるとともに、中学校・大学や地域との連携を推し進め、「社会に開かれた教育課程」を強く意識した春日高校のブランド化を図る。		
評価項目	年度重点目標	具体的方策	評価 (年間)	次年度に向けた主な課題	
教務課	生徒の実態に応じた教育環境の整備、学習支援体制の強化、年間授業時間数の調整を図り、バランスのとれた学力の伸長を支援する。	生徒の希望進路や学習状況に応じた教育課程・教務規程・教務内規を他分掌と協力しながら検討する。 時間割作成と運用に細心の注意を払い、日々の授業実践を支える。また、時間割作成や成績処理システムがスムーズに運用できるように、情報管理課との協力体制を構築する。 「主体的・対話的で深い学び」を支援できる教育環境の整備を進める。	○ ◎ ○	○	出張・年休に伴う授業振替をできるだけ早期に確実に行い、やむを得ず授業が詰まるときには事前に必ず了承を得る。また、当日内の授業変更も含めて、時間割変更ボードを毎日確認してもらうよう全職員に呼び掛ける。 進路指導課・情報管理課と連携して、調査書に連動する指導要録入力システムの構築に着手する。 文化委員・ホームルーム委員の活動をさらに活性化して、各クラスの学習環境の向上に繋げる。 生徒が、自学自習の時間と質を確保する習慣が確立できるように、生活時間調査の分析結果を活かして指導する。
	生徒が意欲的・自主的に学習に取り組み、学力を向上させるための指導の充実を図と共に、進取の意気や未知の分野に挑戦する雰囲気醸成に尽力する。	「心視の時間」を軸に、キャリア教育課・各学年等との連携を図り、生徒の進路意識を高める。 個人成績の通知や成績上位者の掲示を通して、生徒の自信や向上心を刺激し、自主的学習態度を育成する。 委員会活動を活用し、生徒の自主的な学び、積極的な行動力、広い視野の獲得を支援する。 「社会に開かれた教育課程」を発展させ、生徒に活動の場を提供することで、生徒の自尊感情や自主性の向上を目指す。	◎ ◎ ○ ◎		
	各生徒の生活習慣・実態を把握し、持続可能な学習習慣の定着を図る。	年2回の生活時間調査を活用し、各学年と連携しながら、生徒個人が学習記録を自らの学習習慣改善に繋がられるように支援する。 生徒出欠状況、部活動生徒の成績等の情報共有化や時間厳守の徹底を通じて文武両道の実践を支援する。	○ ○		
教務部 企画 広報課	よき伝統を受け継ぐとともに、新しい時代に即した式典や諸行事の企画・運営を行う。	式典や諸行事において、生徒増に伴う様々な課題を検討する。 防災避難訓練において、地震と火災を想定して訓練にあたり、消防署からの講評や実演をいただけるよう計画し実施する。雨天時用に予備日を設ける。年度当初に避難経路図を作成し掲示する。	○ ○	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学生体験入学については、全体会の方法等再検討し、在校生や職員の関わり方を整理する。 ● PTA総会や講演会等のPTA活動への職員の関わり方や支援の仕方を検討する。 ● 中学生や中学校PTA訪問等の広報活動をより活性化させ、組織的に対応できるようにする。 ● 奨学金関係の業務を整理し、学年間の連絡が円滑になる方策を確立する。
	今まで以上に広報活動を工夫し、中学校・大学や地域に対して、本校の魅力を伝える。	中学生や中学校PTA訪問において、教務課と連携を図りながら受け入れを行い、学校説明・校舎案内・授業見学を通して十分なアピールができるような準備や計画をもとに実施する。 中学生の体験入学において、実施方法や実施場所の検討を早期に行うとともに、「中学生との交流会」をさらに充実させる。 学校行事ポスター等を本校生徒に中学校へ持参してもらうよう計画する。 情報管理課と協力して、学校案内パンフレットや「春日の風」に掲載する写真や内容を充実させる。	◎ ○ ○ ◎		
	PTAとの連携を深め、保護者や地域の意見に耳を傾けつつPTA活動を支援し、本校発展に寄与する。	PTA主催行事 (PTA総会、春日祭での出店・展示、視察研修、講演会、ぜんざい会) において、全職員で支援し協力する。特に、PTA総会やPTA講演会の出席率を上げる。 広報委員と連携をとりながら、PTA広報誌「須玖の里」に掲載するための原稿依頼等に柔軟に対応し、委員会活動を積極的に支援する。	△ ◎		
	各業務に関連するICTについて環境整備を図る。	業務効率向上に繋がるソフト・ハードを整備し、職員の負担軽減を図る。 メール配信とホームページ更新を一層活性化させ、校内での情報共有と校外への広報活動に資する。 Microsoft Accessに関する研鑽を重ね、校内データベースの一元化を目指す。 ICTを用いた教育活動を推進するため、LANケーブルの延伸について前向きに検討する。	○ ◎ △ ○		
情報 管理課	教職員のICT技術向上を図る。	ワード、エクセル等の主だったソフトウェアの使い方について、職員の要望に応じて助言を行う。 授業で使えるICT教材について、サーバーなどを通じての共有化を図る。	○ ○	○	<ul style="list-style-type: none"> ● 校内でタブレットや無線LANの需要が高まっているが、県は情報漏洩対策で規制を強めている。その妥協点を探る。 ● アクセスの研修で必要な技能は得られなかった。他校とも情報交換をし次善の策を検討したい。 ● PCや周辺機器の使い方を多くの教職員が共有する必要がある。課職員自身も勉強しつつ、マニュアルを明文化する。
	視聴覚教材の管理を徹底する。	電子黒板を含めた機材の貸し出しについて、ポータルサイトの運用を推し進める。 使い方の難しい機材については、必要に応じて使用法のマニュアル化を図る。	○ △		

生徒部	生徒指導課	豊かな人間性を育ませ、地域・社会で信頼される人物を育成する。	「春日高校五常」を意識させ、心を育てるとともに、教師自らが率先垂範することにより、挨拶や時間厳守を励行し、自主・自律の姿勢及び態度を身につけさせる。	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ●学校行事(春日祭、運動会等)において生徒が、企画・運営等で様々な成長ができるので、今後も教員としての関わり具合を考えながら生徒の成長を促して行く。 ●情報共有や生徒指導課、学年での連携ができていたが、今後も指導の差、基準の差が出ないように共通認識を持つよう取り組む(服装、頭髪等)。 ●生徒会をはじめ、その他の場面でも広報活動を、もう少し展開できたのではないかと考えられるので、生徒会活動等を活性化させるために、活動内容の明確化や広報に取り組む。 ●部活動生の、完全下校の時間が守られてない点があり、部活動の活性化と共に学校生活と関連付けて指導と共に、時間厳守の徹底について考えさせる。 ●交通マナーに対する苦情が多く、自転車の通学者の交通マナーの向上等、交通ルールの遵守が喫緊の課題である。(状況確認、全体指導・個別指導、定期確認等で考案) 	
			学校行事やホームルーム活動の充実・活性化を図るなかで、その目的や意義の理解のもと、企画・運営に取り組ませ、規範意識及び道徳心を育ませる。	◎			
		学校行事等を通してリーダーシップ、フォロワーシップ、コミュニケーション能力を育む。	生徒会執行部と各専門委員会と各部活動と機能的に連動させることで、生徒会活動の活性化を図るとともに、活動内容の広報を適宜行うことで帰属意識を高める。	○	○		
			学校行事等の企画・運営を生徒自身に行わせる等、自主的に取り組む意欲や創造する喜びを体験できるように工夫し、計画力・実行力・調整力と協調性を養い、自らの課題設定力・課題解決力を高めさせる。	◎			
	安全安心のホームグラウンドである学校を作り上げるための指導の充実や継続。	部活動の充実・活性化を図り、加入率85%以上を目指すとともに、「心」の指導を充実させることで、本校発展及び愛校心発揚の核となる生徒を育成する。	○	○			
		「学校生活アンケート」等の有効活用による積極的な生徒観察や関係分掌との緊密な連携をとおして、いじめ撲滅や生徒のつまずきへの早期対応等に努める。	◎				
		交通安全教育の工夫と充実を図り、交通マナーを向上させるとともに、非行防止・防犯教育・自己防衛教育(SDE)を諸機関と連携して計画的に実施し、自他の安全確保と自己防衛力を高める。(生徒指導HRの有効活用)	△				
	保健課	保健指導を適切に行い、健康問題への理解と関心を高め、自ら積極的に解決していく自主・実践的な態度を育成する。	健康診断・健康観察等とおして、生徒が心身ともに健康的な生活が送れるよう指導する	◎	◎		<ul style="list-style-type: none"> ●行事前の保健指導が充実し、健康管理がよくなった。 ●不応生徒への支援体制において保護者との連携ができてきたが、不応の生徒は増加傾向にあるので連携をより密にとりながら対処したい。 ●校内美化の意識が高まり日々の清掃活動もよくなってきた。 ●奉仕活動がなくなり次年度以降実施の時期や方法について検討していく必要がある。 ●新しいトイレの使い方や掃除方法についてより細かく検討し、長くきれいに使用していきたい。
			学校行事・ホームルーム活動・生徒会活動・部活動において、健康管理や安全指導に関する保健・安全指導を適切に行う。	○			
			学年会・生徒サポート委員会を通して、スクールカウンセラー・家庭訪問相談員・特別支援教育コーディネーターとの連携を高め支援体制の充実を図り心の健康維持・増進に努める。	◎			
掃除に対する啓蒙活動を充実させることにより、美化意識の高揚とエコ活動の推進を図り、環境美化に取り組む。		整美委員会の更なる活性化を進め、全校生徒の環境衛生・美化意識の高揚を目指す。	◎	◎			
		安全点検(A区分・B区分)を定期的に行い、安全で快適な学習環境を作る。	○				
グリーンスタッフ活動(花運動・古紙回収)の充実を図り、環境に優しい学校づくりを目指す。	◎						

進路指導課	情報の共有化、データ処理の簡素化・マニュアル化を推進し、進路情報の有効活用を促める。	進路関係の文書・データの共有化および一元化	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○進路部におけるデータ処理に関する研修会や情報共有のさらなる充実。 ○進路のしおり「春風」の内容検討。 ○「進路便り」の内容充実・検討。 ○課外授業・土曜活用講座の科目・内容の検討。
		データ処理の簡素化による迅速且つ正確な成績処理、進路資料の作成	◎								
		情報処理の課内研修会実施、および情報共有	○								
	必要に応じた進路資料の提供や、進路検討会、模試分析会等の企画・立案をし、全職員の進路指導力の向上を図る。	進路執務室の体制作りと情報共有	○	○							
		模試・学力テスト等の分析に必要な資料の効果的・適期な提供	◎								
		進路のしおり「春風」の内容充実と、有効活用	○								
		各学年における「進路便り」の発行	△								
	進路関係の行事や課外・模試の充実を図り、生徒の進学意識を高め、学力の向上を図るとともに、自主的に学習する態度を養う。	学年ごとの進路説明会(コース説明会での実施を含む)の内容充実	◎	○							
		生徒の自主的な学習を促す課外・土曜活用講座の内容検討	○								
		正課授業と課外・土曜活用講座の連携、および科目等検討	○								
		進路資料室の環境・資料充実、生徒の有効活用	○								
	進路部	総合的な学習の時間や行事を通して、進路決定に必要な知識や能力を習得し、適正な勤労観、職業観を育成する。特に、3年間を通じた総合的な学習の時間の充実に向けた体制整備を図る。	1年生では、「SDGs研究」「大学研究」「ディベート」を通して、大学・社会と学問のつながりを意識させ、自分の進路について考えさせるとともに、聞く力、話す力、書く力を身につかせ、豊かな人間性を持った生徒を育成する。	◎							
2年生では、「課題研究」「英語ディベート」を通して、地域から地球規模の社会問題への関心を高め、調べる力、考える力を養い、大学・社会と学問のつながりを意識させ、自分の進路について考えさせる。また、ポスターセッションやプレゼンテーション等を通して、主体的に探求し発表する力や場に応じた適切なコミュニケーション能力を育成する。			◎								
3年生では、進路決定について、進路指導課と協力し、生徒の適正な勤労観を育成する。また、生徒が自己の進路目標を最後まで諦めず、高い志をもち、心身ともにたくましい生徒を育成する。			○								
外部組織(春日市や中学校・大学等)との連携による活動を通し、生徒の進路意識を高めるとともに、自己の在り方、生き方や考え方を育む。		外部での体験活動等に積極的に参加させることで、興味深い学問の世界や様々なものの見方、考え方に触れ、自己の在り方を深く考えさせ、進路意識の向上を図る。	○	○							
		学年にふさわしい講演会や講座を企画運営し、社会に対する意識や自己探求への意識の向上を図る。	◎								
		オープンキャンパスの日程の通知など組織的に運営し、目標とする進学先への関心を深め、進路意識の向上を図る。	△								
各部・各学年・教科との連携を強化する。また、同窓会との連携も強化する。		各学年のキャリア計画が効果的な活動になるよう、各活動で反省記録を残し、生徒にとってよりよいものとなるようにする。また、参加した生徒が他の生徒に還元する場を設ける。	○	○							
		教科や分掌との連携を深め、生徒の活動が円滑に行われるよう支援する。	△								
		同窓会と連携を深め、社会人講演会を通して、職業と学問のつながりや仕事のやりがいなど、今まで以上に生徒に興味・関心を持たせられるように講座数を増やしたり、内容を充実させたりする。	○								
春日学術研究会(K.I.A.)の年間活動を通して、自己のキャリアアップに繋がる活動を計画的に行い、学びの動機付けを行う。		英語(A.E.)コースと理数(N.S.E.)コースに分けて、生徒の希望に沿ったきめ細やかな指導を行う。	◎	◎							
		外部キャリア形成事業に積極的に参加させ、その結果を学内生徒に還元させる。	○								
		上級大学への進学意識の高揚のために、関東圏ハイレベル研修内容を充実させる。	◎								

研修部	研修課	職員研修(校内外)の改善と充実を図る。	学校教育活動の活性化のために、職員の指導力向上に資する職員研修を企画し実施する。	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修の内容検討や講師の外部活用。 センター等の外部研修の積極的利用。 授業アンケートの内容の見直し、実施方法、処理システムの検討。 公開授業の受付係の人数を増やす。 相互授業参観、AL、ICT活用の推進。 研究紀要の計画的な原稿依頼や事務との連携。 充実した教育実習計画。 	
			校外研修の案内を適宜行い、外部事業との連携を図る。	△			
		授業改善に向け、各種アンケート、相互授業参観等の活性化を図る。	授業アンケートを通して、指導の在り方を客観的に振り返り、学習指導の改善に役立てる。	○	○		
			公開授業を通して、保護者に本校の教育活動への理解を深めてもらう機会とする。	◎			
			相互授業参観を通して、本校生徒の実態に即した指導法を共有し、生徒の学力伸長を図る。	△			
	研究紀要の内容の改善と充実を図る。	職員研修や校内の教育活動の実践・探求・発表の場とすることで、本校の教育水準の向上に役立てる。	○	○			
	教育実習の充実を図る。	教科指導員と連携しながら、教育実習生に多様な学校教育活動を経験させることで、後継者を育成する一助とする。	◎	◎			
	図書課	学年に応じた読書を促進させ、情報を収集する能力を養わせるため、適切な選書を行い、図書館の利用を活発化させる。	新入生へのオリエンテーションを行い、教員お奨めの本を紹介しながら読書に親しみを持たせ、図書館の利用を促進させる。	◎	◎		<ul style="list-style-type: none"> 1・2学期の行事は一定の成果を上げることができた。生徒もかなり積極的に諸行事に取り組み、成果をあげたので、次年度以降も継続させていきたい。 中心学年の2年生から1年生にどう活動を伝えていこうかが課題。 各教科・分掌・部活動から購入図書提案をたくさんいただいた。選書委員会も先生方のご協力で有効に機能した。 心視や学年の取り組みでの図書館を有効に活用してもらうために、次年度以降早めの連携・対応をしていきたい。
			各教科・分掌・部活動そして生徒の購入希望図書を掌握し、年4回行う選書委員会を有効に活用し、適切な選書を行う。	◎			
			学級文庫を目的に沿ったものとし、生徒の読書活動を活性化し、豊かな感性を育てる。	○			
			図書館だよりを充実させ、生徒の読書に対する意欲を喚起し、図書の貸し出し数を増やす。(年間貸し出し数3200、各クラス1年間で100冊以上)	◎			
		生徒や生徒図書委員に応じた図書館行事の在り方を検討し、生徒の能力を発揮させ、視野の広い責任感のある生徒を育てる。	図書委員を中心に読書会を実施し、読書に対する意欲を喚起させ、内容を深めて理解させる。	◎	○		
春日祭や体験入学等の学校行事で、図書委員会の活動を校外にも周知させ、活性化させる。			○				
生徒図書委員会合同研修会参加や生徒図書委員会による店頭選書などを行い、図書館のよりよい運営について考えさせる。			◎				
図書館の広報活動に積極的に生徒図書委員を参加させる。			○				
「多読」賞に、より多くの生徒が参加意欲を持つように工夫する。			○				
図書館の学校内での役割を考え、レファレンスの機能を果たす。		各教科・分掌と連携を図り、探究的学習の場としての図書館の利用を促進する。	△	○			
	各方面から情報を収集し、図書館の小論文関係の図書や春日学術研究会、人権学習の資料を充実させ、蔵書リストの周知を図る。	○					
	生徒図書委員や教師選書委員を通して広く購入希望を募り、購入した図書は迅速に貸し出しできるように、学校図書管理システム(e-slip)等を活用し、作業を進める。	○					

1 学年	「春日高校五常」とおとした人間性の育成	5分前行動を意識させ、時間を守る習慣を確立する。	△	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・5分前行動が出来ていない。時間を守ろうという意識を高めさせていく必要がある。 ・挨拶、掃除、持ち物の管理など基本的な生活習慣が身につけていない生徒が多いので、継続して指導していく必要がある。 ・家庭学習時間が不足している。課題等の質を改善させ明確な目標を持って学習に取り組ませていく。 ・授業の取り組みが、クラスによって差が出ている。 ・家庭学習の質と量が必要なレベルに保たれるよう細やかに指導していく必要がある。 ・1, 2学期は、すべての学校生活や行事において教師主導の運営になっている部分もあった。3学期は自ら課題を考えて解決させていくような工夫をしていく。 ・部活動や学校行事を通して、リーダーの育成をしていくための支援が必要と感じる。 ・総合的な学習の時間等でのグループワークは積極的に取り組んでいる。継続して伸ばしていきたい。
		あいさつ、礼法を身につけ、高校生として成熟した習慣を確立する。	○			
		清掃の徹底により、美化意識を高揚させ、感謝の心を養う。	○			
		諸活動とおして心身を鍛え、命の尊さや他者への思いやりを考えさせる。	○			
	確かな学力と思考力の育成	予習・授業・復習のサイクルの徹底により、基礎基本を確立する。	△	○		
		アクティブラーニング等の工夫により、コミュニケーション能力と多様な思考力を養う。	○			
		習熟度に応じた指導により、個々の能力を伸ばす。	○			
		学習に対する助言を個に応じに行い、より高い目標へのチャレンジを促す。	○			
	健全な心身と社会性の育成	部活動の意義を理解させ、加入を奨励し、加入率85%以上を目指す。	○	○		
		部活動や学校行事とおし、計画力・実行力・調整力と協調性を養う。	○			
		学年集会や学年行事における生徒たち自身の運営機会を設定し、主体的な活動を助長する。	△			
		問題解決の機会や場面をより多く設定する。	△			
チャレンジ精神と向学心を基盤とする志の涵養	キャリア教育課と連携し、高い目標の設定とチャレンジする気概を育み、支援する。	○	○			
	高大接続プログラム等への参加や地域との連携事業への積極的参加を促す。	○				
	校外での研修会やボランティア等への参加を奨励し、多様な価値観を育む。	○				
	個人面談や三者面談を活用し、個に応じた支援を行い、確たる目標を持たせる。	○				
2 年生	春日高校五常の実践	出席皆勤を奨励し、99%以上の年間出席率を目指す。	△	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・3年では、受験を言い訳にして、ルールを守らなかつたり、モラルが欠如した行動などをすることがないように、自己指導能力を高める生徒を増やす必要がある。また、けじめある行動を取らせるように指導する。 ・正課の遅刻欠席の数だけでなく、課外の参加者の遅刻欠席者数を減らすための取り組みを行う。 ・授業の準備ができていない生徒が多い。授業の大切さを理解させ、取り組む姿勢を改めさせる。 ・外部模試での成績上位者を増やす取り組みを行う。また、生徒の習熟度にあった課題の出し方の工夫が必要である。 ・すべての学校生活の中で、主体的に活動できる生徒を増やす。 ・総合的な学習の時間は、指導する教員に対しての研修をもっと行う必要がある。
		教師の率先垂範により、清掃活動を徹底させ、美化意識を高めさせる。	○			
	授業心得五行の実践	明るい挨拶により、良好な人間関係の構築に努めさせる。	○	○		
		時間厳守の自覚を持たせ、授業前準備を確実に行わせる。	△			
		予習・授業・復習のサイクルを徹底させ、基礎基本の定着を図る。	○			
	リーダーシップとフォロワーシップの育成	課題のレベル分けや、課外での習熟度別授業で、生徒の実態に応じた指導を行い、学力の定着を図る。	○	◎		
		得意科目の伸長、不得意科目の克服等、自己の課題を自主的に解決する態度を育成する。	○			
		生徒会長をはじめとするリーダーを掘り起し、活躍の場を増やし、リーダー育成に努める。	◎			
高い志の育成	各学校行事の意義を再確認させ、主体的に取り組ませながら、チームワークへの意識を高めさせる。	○	◎			
	学年集会等で生徒による企画や運営の機会を増やし、リーダーシップやフォロワーシップを育成する。	◎				
	キャリア教育の重要性を再確認させ、進路意識を高揚させる。	◎				
3 年生	「春日高校五常」の体現による豊かな人間性の獲得	高い目標に向かって努力する意義を理解させ、チャレンジ精神と向学心を抱かせる。	◎	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任からの指導のばらつきが出ないよう、各部・学年での共通指導の場を増やす必要がある。 ・最後まで第1志望を諦めず後期試験まで登校して頑張る雰囲気を各クラス・学年で作っていく。 ・コース転向など結論の報告のみに終始しない、相談の場の設定に努める。 ・進路情報を全員で共有しチームとして指導にあたる。 ・次年度以降AO推薦出願が更に増えるなら、3学年だけでなく、2学期から学校全体で指導するシステムを作るべき。そのためには研修と情報提供が必要。 ・学習時間の確保が3年になってもできないという現状だった。低学年時からの進路実績に直結する「学ぶ意欲」や「努力を厭わない精神力」の養成を工夫する必要がある。 ・学校行事とおして自己変革を遂げ成長した生徒も多かったが、それを次にどう生かせたかという点で課題が残る。
		春日学術研究以外の生徒にも、高大接続プログラム等に積極的に参加させ、高い志をもつ生徒を増やす。	○			
	進路実現達成のための自主的学習の推進と実効ある「チーム春日」の実現	皆勤の意義付けにより、99%の出席率と50%以上の皆勤率を目指す。	◎	○		
		自主性育成のための工夫を各クラス・各部で実施し、共有し検証して切磋琢磨に努める。	○			
		学習時間の減少が進路実現を阻む一因となる自覚を促し、平日4(6)時間、休日5(10)時間、週30(50)時間の学習時間を確保させる。	△			
		丁寧な面談や個別指導により、各自の学習上の課題を認識させ、自身で解決する態度を養成する。	○			
		第一志望を最後まで諦めず、国公立後期試験まで粘り強く努力する為の指導体制を、学年が主軸となり、進路部・家庭とも連携して確立する。(難関大30名、国公立大200名以上の合格者)	△			
	高い志を持ち自己変革に努める生徒の育成	進路情報の共有と的確で効果的な発信により様々な入試形態に対応できる体制を築く。	○	◎		
行事や部活動の主体的実践を通して成長を促しリーダーシップ・フォロワーシップに磨きをかけさせる。		◎				
「心視」や進路活動HRの意義・内容・実践方法を詳細に共有し、更なる達成感を感じさせる。		○				
	学校生活全般を通して仲間や教師との強い信頼関係を築かせ、自他の成長を自覚させる。	○				

生徒の状況		評価	次年度に向けた主な課題	
<p>昨年度、2件のいじめにつながると考えられる事象について積極的に認知し、その確実な解消に向けて積極的な取組を実施した。「いじめはどこの学校でも起こりえる」ことを自覚し、積極的な取組が必要であり、その啓発が未然防止につながっていく。近年のいじめは、SNS等によるいじめの陰湿化で教員には見えにくくなっている実態がある。そのため、日頃の生徒観察、コミュニケーションや家庭との連携の必要性は大きく、その基盤となる教員との信頼関係の構築が重要である。そこで、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、早期解決のために以下のような具体的な対応をとるものとする。</p>				
いじめ撲滅に係る取り組み	1	早期発見のために日頃の生徒観察や月一回のアンケート調査等の分析を十分に行い、気になる状況がある場合は職員会議等を行い、早期に職員の共通認識を図り、生徒への対応、保護者への説明と観察依頼等を行い早期の対応・解決を図る。	◎	<p>●いじめの早期発見については、生徒・保護者へのアンケートや日常の生徒観察を徹底し、いじめやそれにつながる恐れに教員自身が気付くことが必要である。その「気づきの力」「見抜く力」を教員は常に高める努力を行う必要がある。</p> <p>●いじめと疑われる事案については、積極的にいじめを認知し、確実な初期対応をとることが必要である。特に、対応については「いじめ防止対策委員会」等により組織的に行い、未然防止、早期対応を図るものとする。</p> <p>●いじめに関する職員研修会は、年度の早いうちに行い、学校としての方針や共通認識のもと組織的に行うこととする。</p> <p>●いじめ防止についての取り組みは、特別なものではなく、日常の教師の言動と深く関わっており、その認識を持ち生徒に対する指導を展開することが必要である。</p> <p>●特に、徳育に関する「道徳」や「モラル」についての認識の薄さが生徒の日常に感じられる場面を感じる。教師とともに話す機会や思いを語る機会を作り出すことに努める。</p>
	2	定期的に生徒サポート委員会や担任会等を行い、生徒の動態とともに学習状況等を確認している。その際に、いじめに関する観察結果や今後心配される事柄などを職員で共有・検討し、生徒観察の強化や臨時的個人面談を実施するなどの方策をもっていじめの防止等を心がける。	◎	
	3	定期または臨時に個人面談を実施し、生徒の状況や意識の変化を観察するとともに、友人関係の変化等を聞き取り、いじめ防止に関する情報収集の一助とする。	◎	
	4	各学期の終わりには保護者面談(年2回)を実施し、長期休暇中の生活について注意を促すとともに、いじめに関する保護者アンケートや家庭におけるいじめ発見のきっかけ(家庭用いじめチェックリスト)などを説明し、気になることは学校(担任)に連絡をしていただくよう依頼する。家庭でのいじめ防止に関する意識の啓発と学校との素早い連携による早期発見、早期対応、早期解決を目指す。	◎	
	5	教職員に対しては、年度の早い時期にいじめ撲滅のための研修会を計画的に行い、早期発見のための生徒観察のポイントや早期の対応の在り方などを研修する。また、最近増加傾向のネットによる誹謗中傷からいじめに発展した事例、更には自殺に発展した事例などを事例研究し、このような事例が発生しないための教育活動の在り方や発生した場合の考え方と対応についても十分に研修を行う。	○	
	6	授業中等に生徒の気になる言動等があった場合は、授業を中断して生徒の言動について考えさせるなどの積極的な指導を行い、教員のいじめ撲滅についての姿勢を伝える。	○	
	7	いじめに対する教職員の在り方については、被害者の視点に立つことを大前提とし、いじめを絶対に許さないことを生徒にも集会等の機会あるごとに伝え、学校としてのいじめ防止や撲滅に向かう意志を確実に伝える。	◎	
	8	「学校いじめ防止基本方針」を研修会に活用し、共通認識を図った上で生徒の状況の把握を含めた生徒観察を行い、学校としていじめを許さない姿勢を常に生徒に伝える。	◎	